

草のみどり

Kusa no Midori

2021. 9

Special feature

キャンパスライフ体験会
FRONT LINE 総合政策学部



国際経営学部



Vol.09

FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

常に挑戦・前進する
GLOMAC生！私立明治学院東村山高等学校（東京都）
国際経営学部国際経営学科2年三松 莉緒
みまつ りお【はじめに】
コロナ禍での新入生

私は2020年の春、国際経営学部国際経営学科の第2期生として中央大学に入學しました。受験を終え、さあこれから大學生生活だ、というタイミングで新型コロナウイルスの感染が拡大。入学式の延期、国際交流関連事業の中止、オリンピックボラントリー活動の延期、短期留学の延期（オンライン化決定）と、楽しみにしていた予定が瞬く間に遠のいていきました。春学期は完全オンライン授業となり、キャンパスに足を運ぶことができませんでした。先行きの見えない状況が続く中で自分が今すべきこと・できることは何か、日々考えながら大學生生活を送っています。

設立3年目のGLOMAC
（国際経営学部）で学ぶ

国際経営学部では授業の7割以上が英

語で行われています。高校では英語を「学ぶ」プロセスが重視されるケースが多いのに対し、国際経営学部では日々英語をコミュニケーションのツールとして「使う」環境の整備が重視されています。プレゼンテーションやディスカッションを通して自分のアイデアを外国語で伝える訓練を積むことは非常に役立つスキルであると感じます。二方向的に伝えるだけでなく、そのトピックについてディスカッションをし、質問に答え、先生からフィードバックをいただき改善するという過程は、まさにコミュニケーション能力を鍛えられる場であり、授業は海外のMBAのように実践的です。

必修科目である情報統計という分野では、プログラミングソフトのR言語やPythonを駆使し情報解析を行います。数学が苦手な文系である自分がまさか大学でプログラミングソフトを使うとは想像もしませんでした。トリッキーな側面がある分、やりがいがあります。そういった意味

で、今まで気付かなかった自分の可能性を広げることのできるカリキュラム・先生方がそろっているのが国際経営学部といえるでしょう。

企業訪問でキャリアへの
イメージをつかむ

企業訪問は国際経営学部の目玉事業となりつつあります。私は1年次JICA（対面）、経団連（対面）、経済産業省（オンライン）、AGSコンサルティング（オンライン）の4社を訪問しました。1年次からキャリアに対するイメージを膨らませ、かつ実際に訪問することのできる機会が用意されていることは国際経営学部ならではの魅力です。経団連訪問では大手町にある経団連会館を訪れ、新成長戦略をベースとしてSociety5.0の在り方やDX促進の取り組みなどについて幅広くお話を聞かせていただきました。

企業訪問以外の普段の授業でも、実務



訪問時積極的に発言する筆者

家によるスペシアルな講義を受ける機会が国際経営学部には数多く設けられています。そして、学生をモチベートし、実社会との距離を近づける工夫を凝らしてくださる先生方が多くいらっしゃいます。また、今年度からは2・3年生有志が企業訪問を企画運営するCVS（Company Visit



Supporters) という組織でリーダーを務めるチャンスを得たとき、新入生の企業訪問をサポートすることとなりました。せっかくの機会ですので2021CVSの活動を通じて、組織として、また個人としてさらなるレベルアップを図っていききたいと構想しています。

オンライン留学に挑戦

2020年夏に予定していたニューヨーク州立大学スタテンアイランド校への短期留学は、新型コロナウイルスの影響により2021年の春休みにオンラインでの実施となりました。現地の留学生と混合のクラスに入り、TOEFL ITP対策やConversationの授業をZoomにて約3週間受講しました。ニューヨークという土地柄、中南米諸国（ブラジル・ペルー・コロンビア・プエルトリコ・エクアドル）からの参加者が多く、クラスメイトである彼らとコミュニケーションが取れたことは貴重な思い出です。

またゲストスピーカーとしてマンハッタンのニューヨーク日本領事館にお勤めの中央大学OBや、ニューヨークでアントレプレナーとして活躍する日本人、エンパイアステートビルにオ



JICA訪問事前勉強会でのグループワーク



大手町にある経団連会館



経団連対面訪問時、中央大学のCの文字とともに！

フィスを構えるLinkedInのセールスマネージャーから講義を受ける機会も用意されており、非常に充実したカリキュラムでした。最終日には短期留学の成果としてTOEFL ITPを受けました。特にリスニングやライティングの分野で好成績を残すことができ、短期留学の効果を実感しました。最後になりましたが、コロナ禍でも学びを止めないという方針のもと充実した大学生活を送るサポートをし、学生の精神衛生を保つ環境を整えてくださったという父母連絡会の皆さま、先生方、職員の方々、関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

国際経営学部だより

コロナ禍における学習環境の変化

国際経営学部助教 倉田 紀子

多摩キャンパスは森の中にあり、駅に最も近い校舎が「FOREST GATEWAY CHUO」です。2021年4月から利用が始まったこの新校舎には、色とりどりの切り株のような椅子が置かれ、Webexに対応した可動式の大画面が設置されています。遊び心がある設備と最先端の機器とを備えており、学生からは「オシャレ！」との声が挙がっています。

国際経営学部の授業では、主にこの校舎が使用されています。コロナ禍にあっても気持ちが和らぐ環境で、教員と学生がデジタルやリアルでのコミュニケーションを図っています。

今年度夏季の短期留学「Global Studies I」は、新型コロナウイルスの影響によりオンライン授業となりました。海外の生活様式を体験することはできませんが、オンライ

ン授業ではネイティブスピーカー教員による講義だけでなく、現地の企業で働く方による講演等、ビジネスに触れる機会が設けられました。たとえば、シリコンバレーに近接するカリフォルニア州立大学イーストベイ校のプログラムでは、世界的なIT企業（2020年度はGoogle）の社員による講演と質問会が予定されています。このようなビジネスの現場を知る授業は本学部特有のもので、プログラム実施校への特別な依頼により実現されています。オンライン授業で音声は滑らかではないこともあるので、通じ合おうとする熱意がこれまで以上に培われるようです。

アメリカではアジア人に対するヘイトクライムも発生していますが、新型コロナウイルスが収束することにより多様性を認め合うカラフルな文化に対する寛容さが戻り、リアルな短期留学が可能になると信じています。

